

# 第1学年A組 数学科学習指導案

場所：1年A組教室

在籍：男子12名 女子7名 合計19名

指導者：吉田光宏

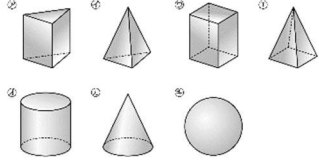
1 単元名 立体の見方を広げよう [空間図形]

2 本時の学習 (本時1/18)

(1) ねらい

身のまわりにある立体をいろいろな見方で分類し、どこに着目して分類したかを説明することができる。

(2) 学習の展開

段階	学習活動と予想される子どもの姿	主な支援と評価
導入 (10分)	1 問題を把握する。	・問題提示された立体と類似している身のまわりのものを想起させながら、形状を実感させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>問題</b> 身のまわりにあるものから下の㉗～㉙の立体を見つけました。これらの立体をいろいろな見方で分類してみよう。</p> </div> 	
	2 学習課題を確認する。	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>課題</b> 立体を分類するとき、どんな分類の仕方があるのか？</p> </div>	
展開 (35分)	3 自力解決に取り組む。	・つまづきが見られる生徒には、立体模型を活用して、立体の形状を認知させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[予想される生徒の反応]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平面や曲面の有無</li> <li>・底面の数 ・面の形</li> <li>・先のとがった部分の有無</li> </ul> </div>	・分類した際に、どこに着目して分類したのかを明記させる。
	4 いろいろな考えを共有する。	・必要に応じて、「角柱」「円柱」「四角形」「三角形」「底面」「平面」「曲面」など既習の用語を用いて表現するよう促す。
	5 本時のまとめをする。	・一つの分類ができた生徒には、ほかの分類も考えさせる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>まとめ</b> 立体を分類する際の着目点</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 「平面だけ」、「平面と曲面」、「曲面だけ」で囲まれている。</li> <li>② 「角柱」、「円柱」、「球」、「先がとがっている」</li> <li>③ 「底面が2つ」、「底面が一つ」、「底面なし」</li> </ol> </div>	・いくつかの分類の仕方を紹介し、他の生徒に分類の着目点を考えさせる。必要に応じて、ペアや小グループで確認させる。
	5 生徒の考えを拾いながら、分類の着目点を整理する。	
まとめ (10分)	6 評価問題を解いて、本時の学びを振り返る。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>分類された立体がどこに着目して分類されたかを説明することができる。【思考・判断・表現】(観察、評価問題)</p> </div>